



環境省  
エコアクション21  
認証番号 0007685

# 2014年度 環境活動レポート

(2014年4月～2015年3月)



九州高圧コンクリート工業株式会社

2015年7月1日 発行

# 目次

1. 会社概要	1
2. 環境方針	3
3. 環境活動推進体制	4
4. 中長期目標	5
5. 環境活動実績	
(1) 2014年度環境活動取組状況	7
(2) 2014年度環境活動目標と実績	9
(3) 個別項目の取組状況と次年度の取組	
① 電力使用量削減の取組	10
② A重油使用量削減の取組	11
③ 水使用量削減の取組	12
④ 社有車の環境負荷低減の取組	13
⑤ 用紙の適正使用・処理の取組	14
⑥ 事務用品のグリーン調達率の向上の取組	15
⑦ 産業廃棄物リサイクル率向上の取組	16
⑧ 建設業における産業廃棄物リサイクル率及び グリーン調達率向上の取組	17
⑨ 産業廃棄物処理業におけるリサイクル率向上の取組	18
(4) 事業別環境負荷実績	19
(5) 環境活動コスト	20
(6) 環境衛生資材『床カラット』	21
6. 環境関連法規制の遵守	22
7. 省エネ法実績	24
8. 次年度の環境目標	26
9. 代表者による全体評価と見直し	27

九州高圧コンクリート工業株式会社は、優れた技術であらゆるニーズに対応。  
 確かな技術と安心できる品質でコンクリート分野の新たな可能性を追求し続ける総合メーカーです。



### 基本情報

- 事業者名 九州高圧コンクリート工業株式会社
- 代表者 中西 章夫
- 設立年月日 1957年11月5日
- 資本金 2億4千万円

### 事業の内容

- コンクリートポール及びコンクリートパイル、その他コンクリート製品の生産並びに販売
- 土木建築工事の設計・施工並びに監督
- 産業廃棄物のリサイクル及び処理業
- 既設コンクリート構造物調査・診断に関する一切の事業
- バッテリー再生に関する事業

### 許可の内容

- 建設業 土木工事業、とび・土工事業、ほ装工事業、塗装工事業
- 廃棄物処理業 中間処理業／ガラスくず等、がれき類（自動車等除く）
- 産廃収集運搬業 がれき類

### 事業の規模

- 売上高 70.8 億円
- 生産量 76,296 トン
- 工事件数 1,247 件
- 廃棄物処理量 15,569 トン

### 対象事業所

- 本社 福岡県福岡市南区向野一丁目13-14
- 豊前工場 福岡県豊前市大字八屋2544-61
- 熊本工場 熊本県菊池市旭志川辺1349-4
- 鹿児島営業所 鹿児島県鹿児島市南林寺町26-4

### 沿革

1957年11月	設立
1958年 9月	九州電力(株)にポール納入開始
1958年10月	豊前工場竣工
1964年 4月	PCパイル製造開始
1970年 4月	JR、NTTにポール納入開始
1971年 7月	鹿児島営業所を設置
1977年 4月	電線類地中化製品製造開始（豊前）
1981年 9月	熊本工場竣工
1998年 2月	廃品ポールのリサイクル事業開始
2001年 1月	ISO9001 品質システム認証取得
2007年 5月	新 JIS マーク取得（豊前）
2007年 7月	新 JIS マーク取得（熊本）
2007年11月	創立50周年
2010年 9月	エネルギー使用の合理化に関する法律に基づき特定事業者指定
2011年11月	エコアクション21認証取得
2012年11月	再生骨材使用ポール生産開始（熊本）
2014年 7月	ポール生産を熊本工場に集約

## 環境理念

九州高圧コンクリート工業株式会社はコンクリート製品の生産・販売を中核とする全ての事業活動が地球環境に影響を与えていることを自覚し、地域環境との調和を目指して事業活動に伴う環境負荷の低減に取り組めます。

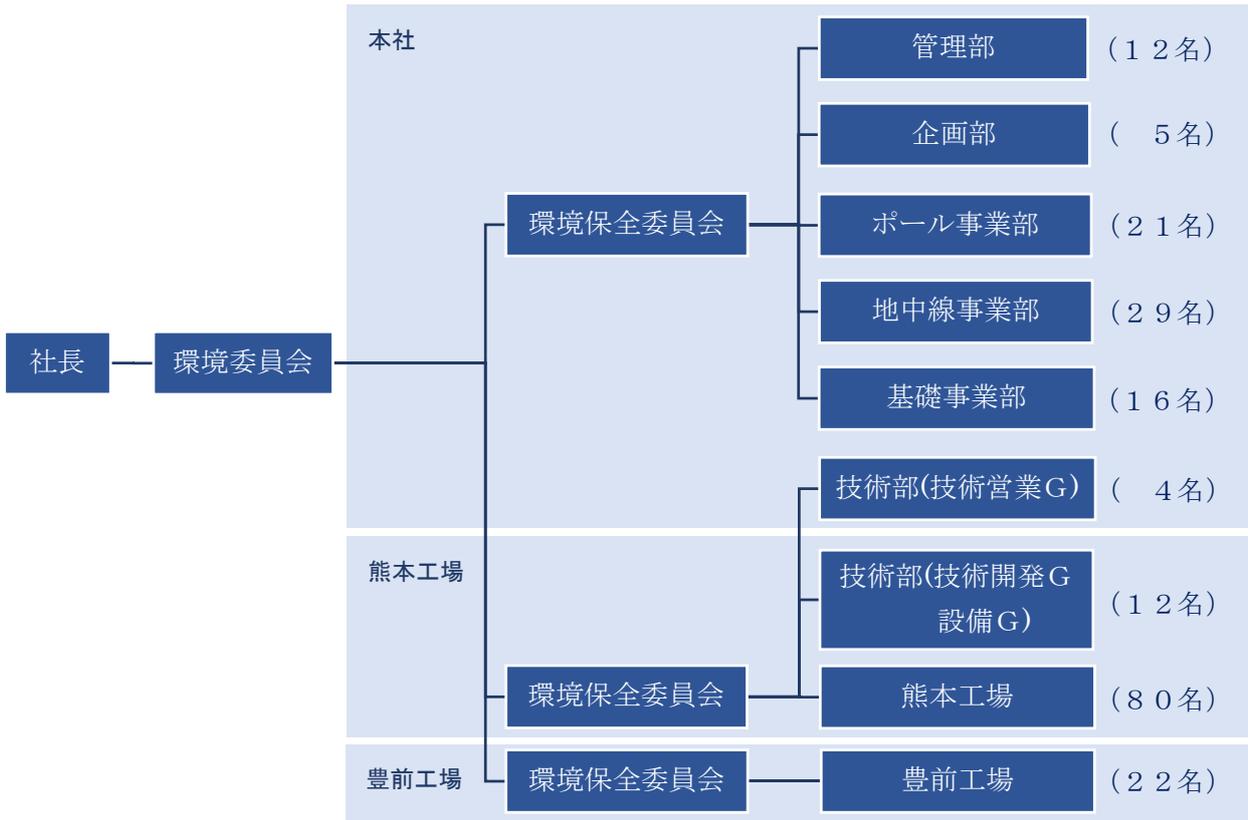
## 基本指針

1. 環境活動として、次の重要テーマに取り組めます。
  - (1) 温室効果ガス排出量の削減
  - (2) 廃棄物量の削減・リサイクルの推進
  - (3) 水使用量の削減
  - (4) 化学物質使用量の削減
  - (5) グリーン調達の推進
2. 環境関連法規等を遵守します。
3. 環境目標及び環境活動計画を策定し、継続的に改善を行います。
4. 環境方針を全社員に周知し、社員一丸となった環境活動を推進します。
5. 環境活動レポートを作成、公表し、社会とのコミュニケーションを図ります。

2014年6月20日改定  
九州高圧コンクリート工業株式会社  
代表取締役社長 中西 章夫



[2015年7月]



エコアクション21は全ての組織・事業が対象です

### 委員会の構成

	環境委員会	本社	豊前工場	熊本工場
委員長	企画部長 [環境管理責任者]	管理部長	工場長	工場長
委員	環境保全委員長 エネルギー管理員 エネルギー管理企画推進者	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員	関係管理職 エネルギー管理員
事務局	企画部	総務G	生産・検査G	管理G

### 主な役割

責任者	主な役割
環境管理責任者	全社における環境活動の構築・運用責任者
環境委員会	環境活動マニュアル策定、環境方針・計画及び目標の策定、 公害防止に関する対応事項策定、省エネ法対応 等
環境保全委員長	事業所における環境活動の構築・運用責任者
環境保全委員会	環境計画及び目標の啓蒙・実施、環境活動の確認・評価、 公害防止対応、緊急事態への対応 等
従業員	環境方針、計画に従い、全ての環境活動に取り組む
企画部	環境への負荷、取組の取りまとめ、環境関連法規の確認・情報収集、 環境活動レポートの作成 等

4. 長期目標

中長期目標 [2009年度を基準年度とし、継続して3ヶ年の中長期目標を策定]

項目		基準年		実績			目標		
		2009年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度			
二酸化炭素排出量	目標		0.04551 $\frac{t-CO_2}{t}$	0.04506 $\frac{t-CO_2}{t}$	0.04461 $\frac{t-CO_2}{t}$	0.04416 $\frac{t-CO_2}{t}$			
	実績	0.04786 $\frac{t-CO_2}{t}$	0.05321 $\frac{t-CO_2}{t}$						
産業廃棄物	目標		96%	96%	96%	96%			
リサイクル率	実績	96%	98%	%	%	%			
水使用量	目標		0.80 $m^3/t$	0.79 $m^3/t$	0.78 $m^3/t$	0.78 $m^3/t$			
	実績	0.84 $m^3/t$	0.67 $m^3/t$	$m^3/t$	$m^3/t$	$m^3/t$			
事務用品	目標		80%	86%	86%	86%			
グリーン調達率	実績	63%	86%	%	%	%			

※1：電力の二酸化炭素排出係数は、各該当年度の九州電力実排出係数を使用

※2：二酸化炭素排出量、水使用量の原単位は、生産重量を使用

中長期目標の考え方

- 二酸化炭素排出量、水使用量 → 前年目標値1%削減
- 産業廃棄物リサイクル率 → 現状維持
- 事務用品グリーン調達率 → 九電グループ目標値

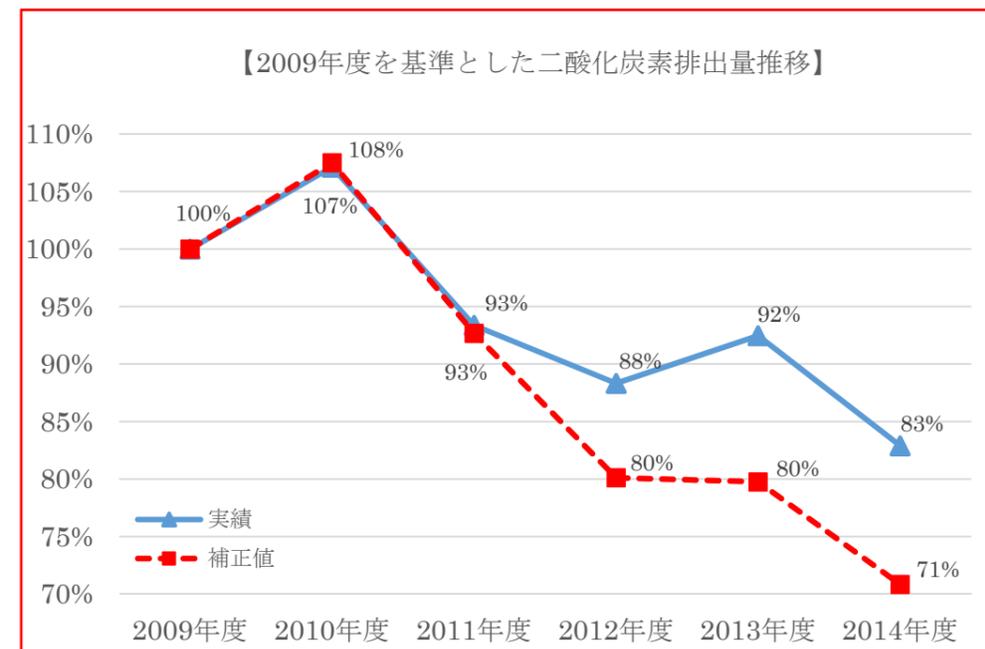
二酸化炭素排出量の推移

2009年度を基準年とした二酸化炭素排出量実績

項目	単位	目標 実績	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
			(基準年度)					(最終年度)
二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub>	実績 <sup>※1</sup>	4,898 (100%)	5,247 (107%)	4,573 (93%)	4,326 (88%)	4,529 (92%)	4,060 (83%)
		補正值 <sup>※2</sup>		5,266 (108%)	4,539 (93%)	3,925 (80%)	3,907 (80%)	3,470 (71%)
生産重量当たりの 二酸化炭素排出量	t-CO <sub>2</sub> /t	目標		0.04738 (99%)	0.04690 (98%)	0.04644 (97%)	0.04597 (96%)	0.04551 (95%)
		実績 <sup>※1</sup>	0.04786 (100%)	0.04927 (103%)	0.05269 (110%)	0.05406 (113%)	0.05535 (116%)	0.05321 (111%)
		補正值 <sup>※2</sup>		0.04944 (103%)	0.05230 (109%)	0.04904 (102%)	0.04774 (100%)	0.04548 (95%)
生産重量	t	実績	102,343 (100%)	106,514 (104%)	86,795 (85%)	80,027 (78%)	81,833 (80%)	76,296 (75%)

※1：電力の二酸化炭素排出係数は、省エネ法に従い九州電力の各年度の実排出係数を使用

※2：電力の二酸化炭素排出係数は、九州電力の2008年度実排出係数(0.374 kg-CO<sub>2</sub>/kWh)を使用



5. **環**境活動実績

(1) 2014年度環境活動取組状況

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
地球環境問題への取組	事業所における省エネ・省資源活動の推進				 夏季節電期間					 冬季節電期間			
	運輸面でのCO <sub>2</sub> 削減推進	 低公害車へ更新 (1台)		  低公害車を導入 (2台)			 ハイブリッド車を導入(1台)						
循環型社会形成への取組	廃棄物のゼロエミッション活動の継続的な展開			製造過程で発生した産業廃棄物の分別、収集した産業廃棄物(廃品ボール)の管理・適正な処理、回収BOXへの古紙回収、電子媒体の活用や裏面利用・両面コピーによるペーパーレス化 グループ会社を活用した蛍光灯及び乾電池リサイクル スラッジリサイクル事業性評価									 サンプル出荷・製品販売
	グリーン調達への推進			事務用品・建設資材の積極的なグリーン商品購入、購入実績の確実な把握									
地球環境の保全	化学物質等の適切な管理・処理及び代替化の取組			化学物質排出把握管理促進法に基づいた化学物質の適切な管理と使用量の的確な把握 取扱量1トンの超の物質を届出									
社会との協調	環境情報の公開		 環境活動レポート作成			 ホームページで公開			 環境活動レポート大賞・九州で「九州地方環境事務所長特別賞」受賞				
	地域に密着した環境活動の推進			本社:本社周辺の清掃活動(毎週)			豊前:工場周辺の清掃活動(1回/3ヶ月)		熊本:工場周辺の草刈り(1回/3ヶ月)、工場周辺の清掃活動(1回/年)				
環境管理の推進	環境マネジメントシステムの自立的運用		 環境委員会/ 環境保全委員会		 環境保全委員会		 環境委員会/ 環境保全委員会		 環境保全委員会				
	環境教育の実施及び環境情報の共有化		内部監査の実施(豊前工場、熊本工場、本社)					DVD研修、パワーポイントによるE A21取組実績報告(豊前工場、熊本工場)ビデオ研修及び現状報告と課題説明(本社)					

## (2) 2014 年度環境活動目標と実績

項目	目標	実績	達成度	評価
<b>【製造業】</b>				
オフィス電力使用量削減	8.33kWh/m <sup>2</sup> 以下	7.31kWh/m <sup>2</sup>	112.2%	○
工場等の電力使用量削減	30.9kWh/t 以下	31.2kWh/t	99.0%	×
低公害車の導入	71.0%以上	79.5%	112.0%	○
ガソリン消費率向上	13.5km/ℓ以上	15.1km/ℓ	111.6%	○
A 重油使用量削減	11.8ℓ/t 以下	11.2ℓ/t	105.2%	○
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	98.0%	102.1%	○
古紙リサイクル率 100%	100.0%	100.0%	100.0%	○
用紙使用量削減	975 枚/以下	703 枚	127.9%	○
オフィス水使用量削減	0.58 m <sup>3</sup> /人以下	0.38 m <sup>3</sup> /人	135.3%	○
工場等の水使用量削減	0.80 m <sup>3</sup> /t 以下	0.67 m <sup>3</sup> /t	116.5%	○
事務用品のグリーン調達率向上	80.0%以上	86.2%	107.8%	○
規制フロン回収率 100%	100.0%	実績なし	—	○
<b>【建設業】</b>				
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	100.0%	104.2%	○
建設資材のグリーン調達率向上	80.0%以上	100.0%	125.0%	○
<b>【産業廃棄物処理業】</b>				
収集した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	99.9%	104.0%	○

※m<sup>3</sup>は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を示す

### 2014 年度環境目標設定の考え方

- ① 基本的に、九電グループ環境目標に準じて目標設定
- ② 省エネ法対応の為、工場等の電力、A 重油は前年度目標値▲1%
- ③ E A 2 1 の取組の為、工場等の水使用量は前年度目標値▲1%

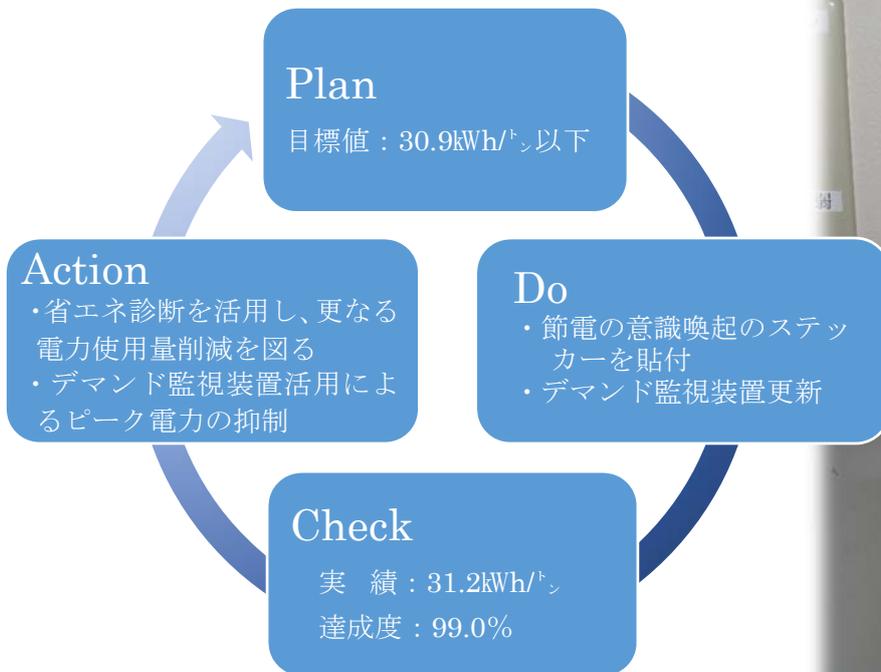
### 実績評価

2014 年度の環境活動は、各事業所で計画的かつ適切な取組みが行われており、概ね良好な活動結果であった。15 項目の環境目標を設定し活動した結果、目標達成 14 項目、目標未達成 1 項目となった。未達項目である電力使用量については削減はしたものの、生産量減少の影響をカバーできず、原単位での目標は未達となった（前年度比：電力使用量 94.5%、生産量 93.2%）。

### (3) 個別項目の取組状況と次年度の取組

#### ① 電力使用量削減の取組

2014年度の取組



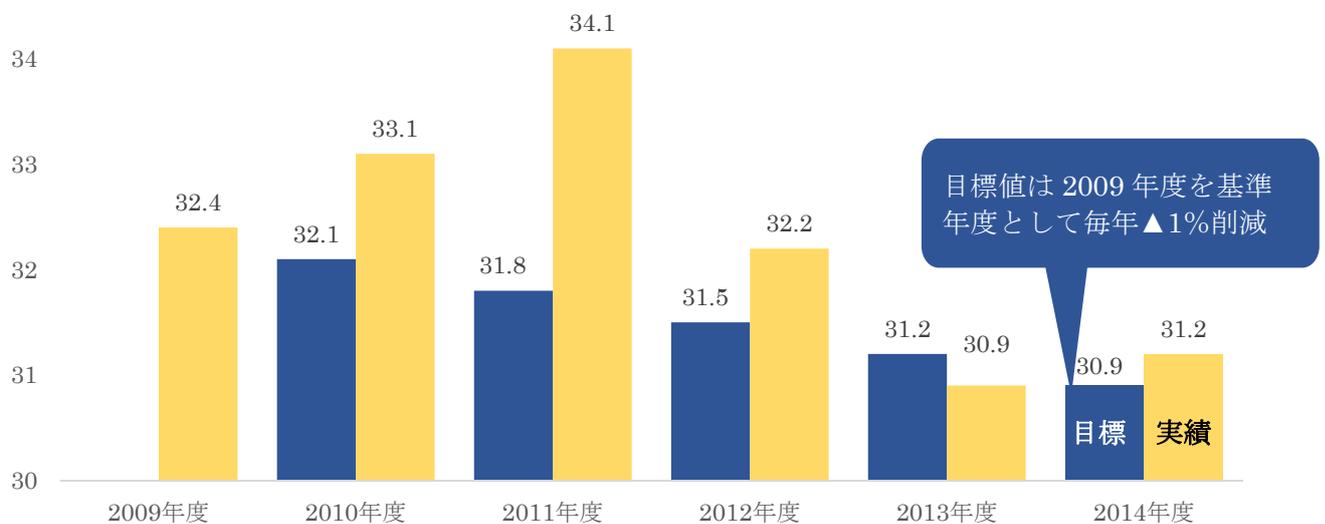
節電の意識喚起のステッカーを貼付

デマンド監視装置更新

基準年度からの推移

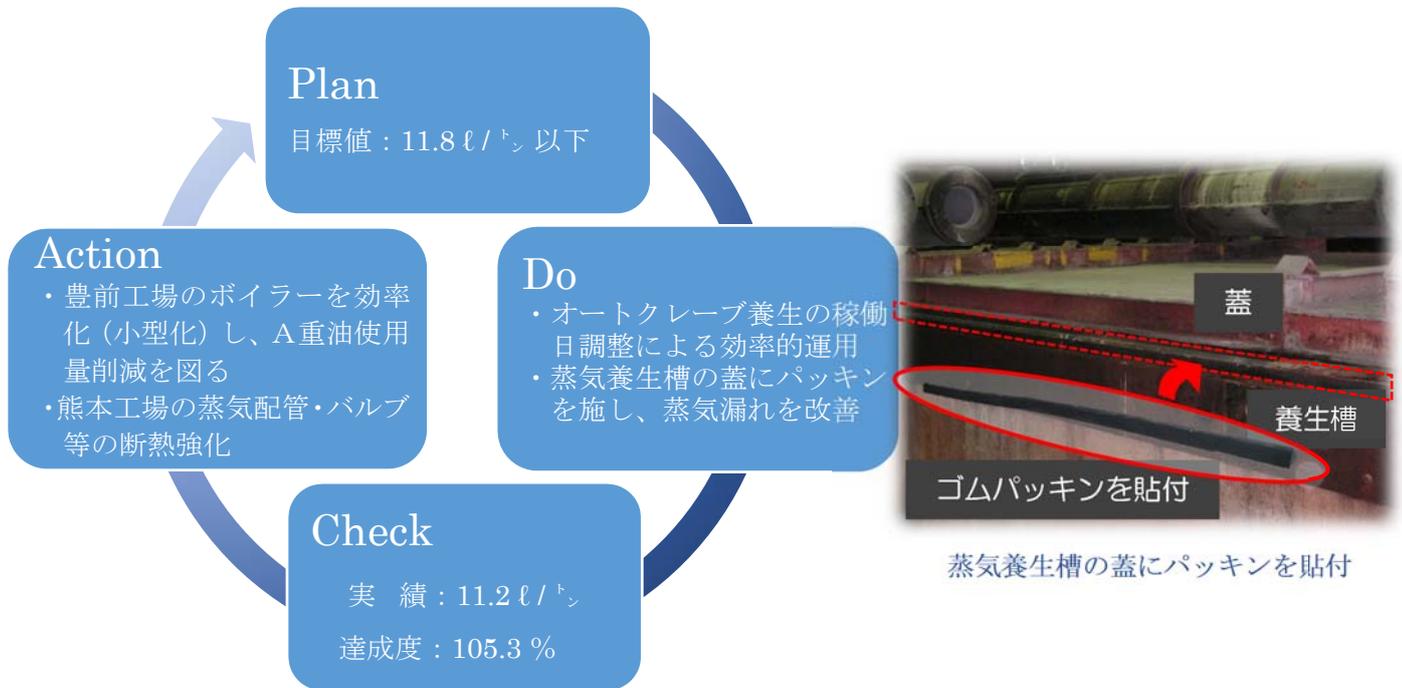
(kWh/トン)

#### 2009年度比96%と電力使用量（原単位）を削減

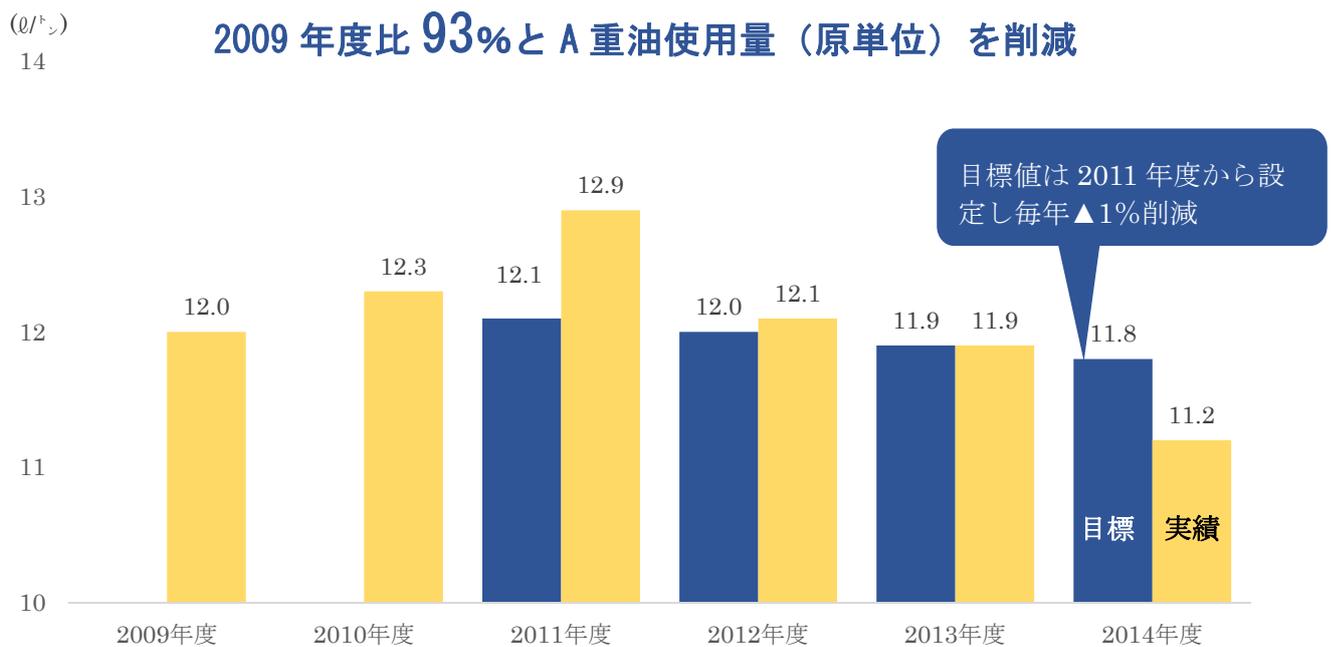


## ② A重油使用量削減の取組

2014年度の取組

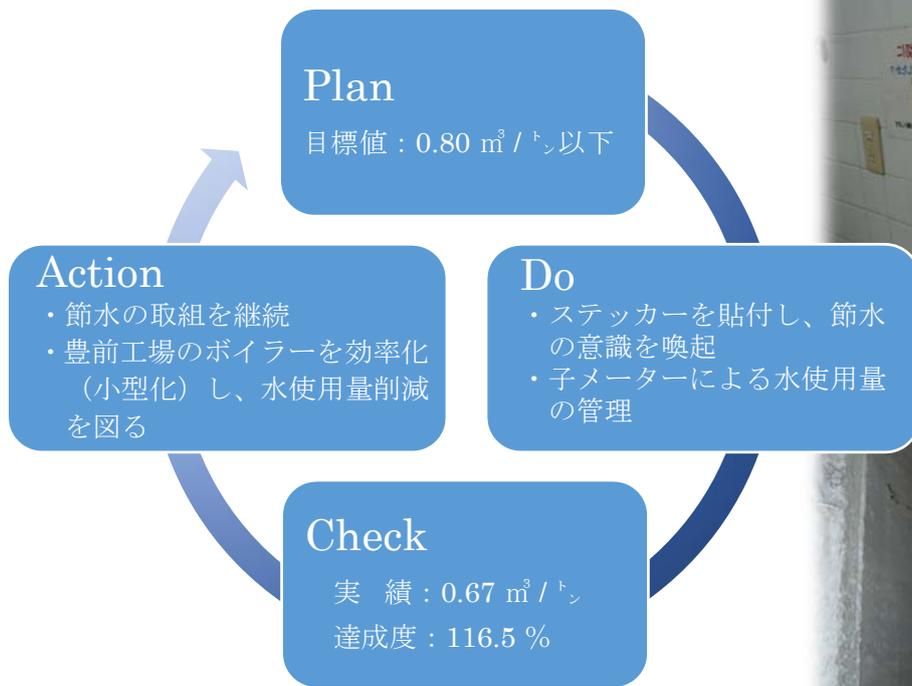


基準年度からの推移



### ③水使用量削減の取組

2014年度の取組



節水の意識喚起ステッカーを貼付

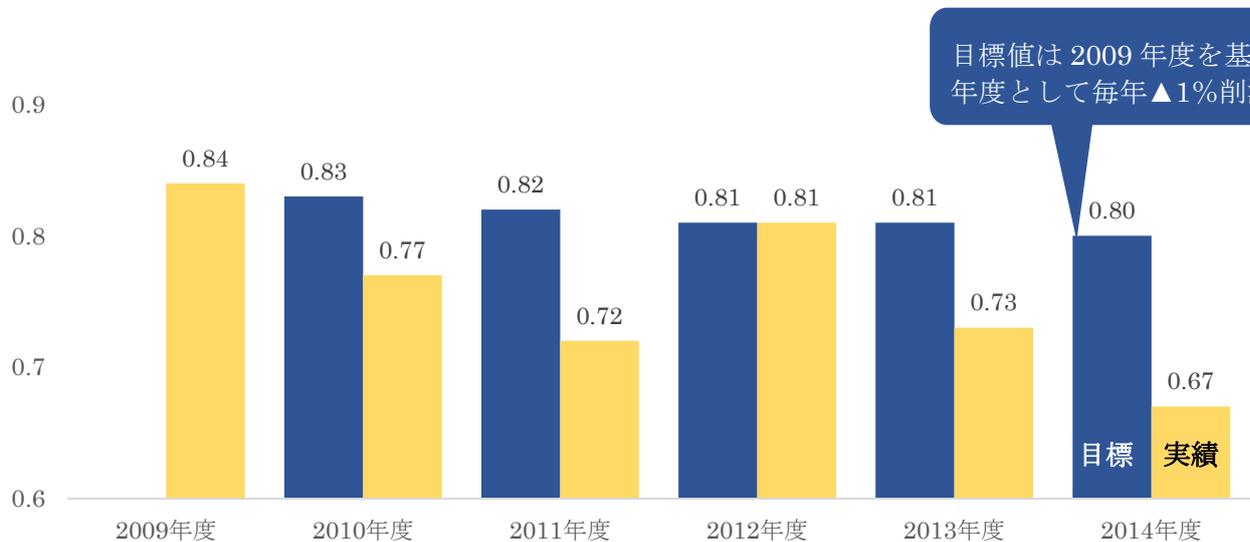


子メーター管理

基準年度からの推移

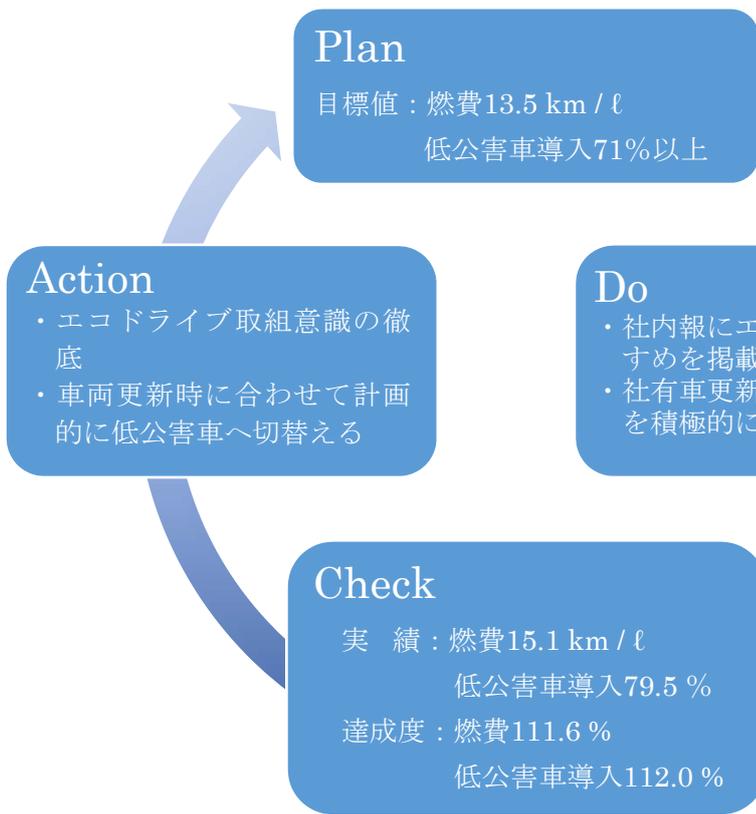
(m<sup>3</sup>/t)  
1

2009年度比80%と水使用量（原単位）を削減



## ④社有車の環境負荷低減の取組

2014年度の取組



**エコドライブのすすめ** 企画部経営管理/中村 聡

**1. 自動車から排出される二酸化炭素**  
自動車から排出されるCO<sub>2</sub>量を減らしたい。地球温暖化対策の中で一番大きな課題なのがCO<sub>2</sub>の排出量削減。このCO<sub>2</sub>の排出量を減らすには化石燃料の消費を減らす必要があります。運輸部門のCO<sub>2</sub>排出量は全体の21%。その中でも自動車からの排出量が約半分を占めており、自動車からの排出されるCO<sub>2</sub>を削減することが急務なのです。ハイブリッドカーの普及を促すには、各社各業の技術開発の努力が進んでいくこともありますが、その効果が目に見えないもの、全業種各業の増加ともあり、CO<sub>2</sub>排出量は2009年に比べて、約20%増加しています。

**2. 社有車の取組状況**

低公害車導入率(%)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
低公害車	71.0	79.5	79.5	79.5	79.5
ハイブリッド車	10.0	15.0	15.0	15.0	15.0

燃料消費の走行距離(Lm/ℓ)

年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度
燃料消費	13.5	14.0	13.5	13.5	15.1

低公害車への切り替えは既に進捗。特に、2009年度からは2009年度の1.8%に増加。

ハイブリッド車を含む低公害車の積極的な導入により、燃料消費の走行距離は2009年度比で18.7%と大幅的に向上。

アクセルを踏んで奥まで踏み、最初の9秒で、時速20の速さにおいて、やさしい発進心がけを心がけて、20%以上、軽やかな発進は、安全運転にもつながります。

7. 加速・減速のない少ない運転  
アクセルを踏んで奥まで踏み、最初の9秒で、時速20の速さにおいて、やさしい発進心がけを心がけて、20%以上、軽やかな発進は、安全運転にもつながります。

8. 不要なブレーキを踏まない  
アクセルを踏んで奥まで踏み、最初の9秒で、時速20の速さにおいて、やさしい発進心がけを心がけて、20%以上、軽やかな発進は、安全運転にもつながります。

9. 急なブレーキを踏まない  
アクセルを踏んで奥まで踏み、最初の9秒で、時速20の速さにおいて、やさしい発進心がけを心がけて、20%以上、軽やかな発進は、安全運転にもつながります。

10. 自分の燃費を把握しよう  
自分の車の燃費を把握することを習慣にしましょう。日々の燃費を把握すると、自分のエコドライブ効果が実感できます。車に搭載されている消費計・エコドライブナビ・カーナビ・インターネットでの燃費管理などのエコドライブ支援機能を使うと便利です。

社内報掲載記事

5ヶ年の推移

(km/ℓ)

25.0

### 燃費向上の取組が定着

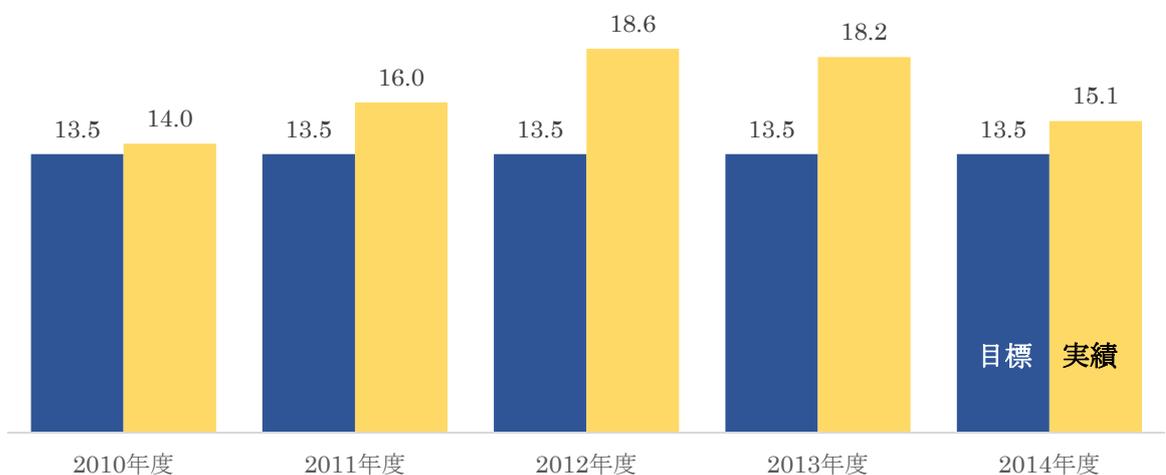
20.0

15.0

10.0

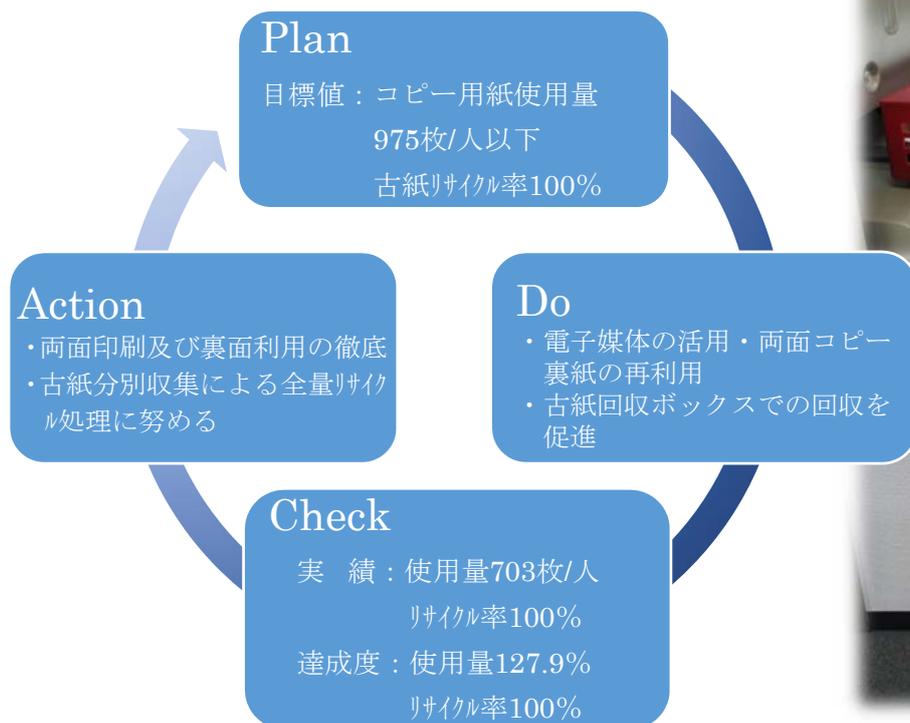
5.0

0.0



## ⑤用紙の適正使用・処理の取組

2014年度の取組



裏紙の再利用



古紙回収ボックスでの回収

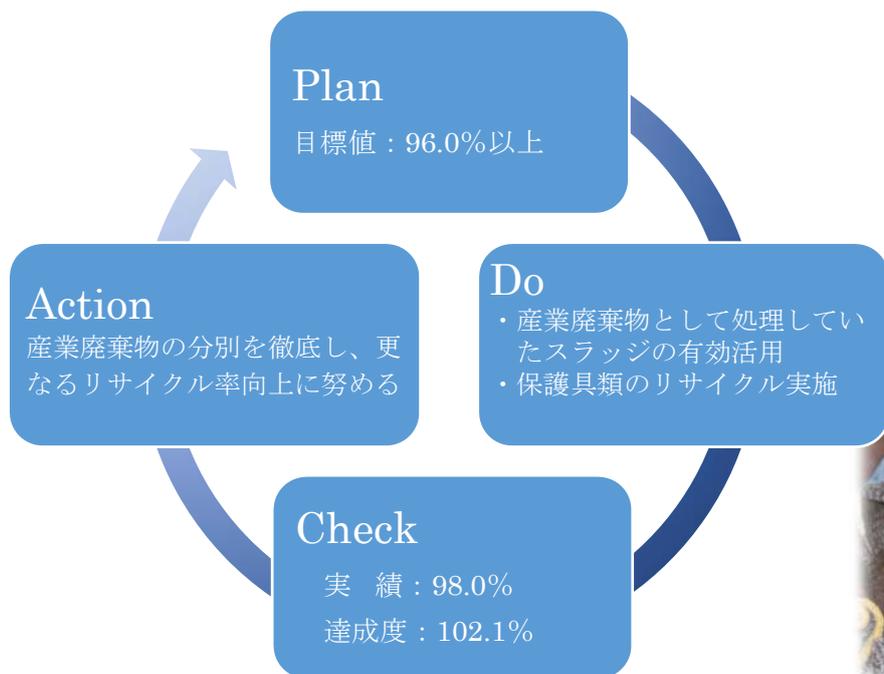
5ヶ年の推移





## ⑦産業廃棄物リサイクル率向上の取組

2014年度の取組



スラッジの有効活用

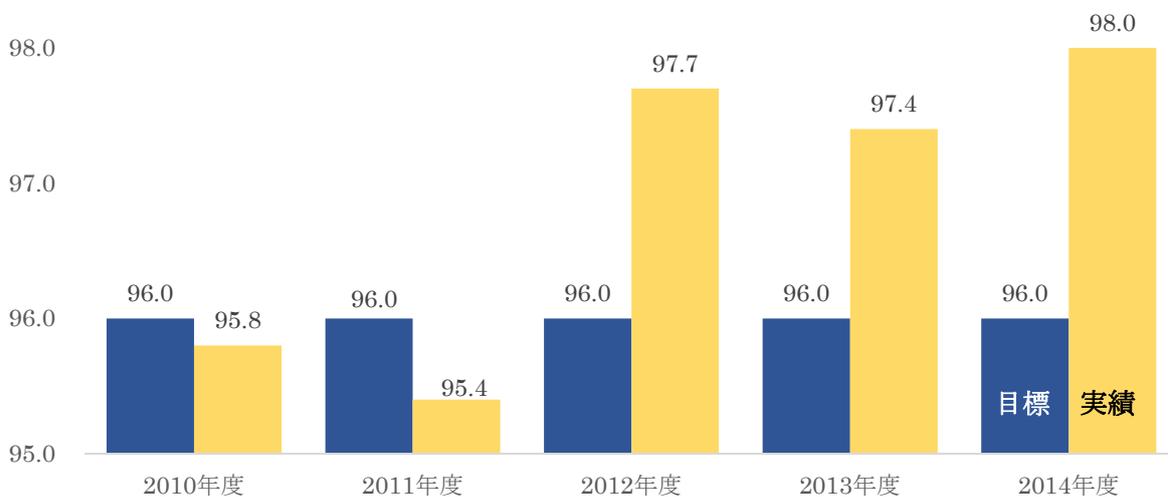


安全靴や軍手等のリサイクル

5ヶ年の推移

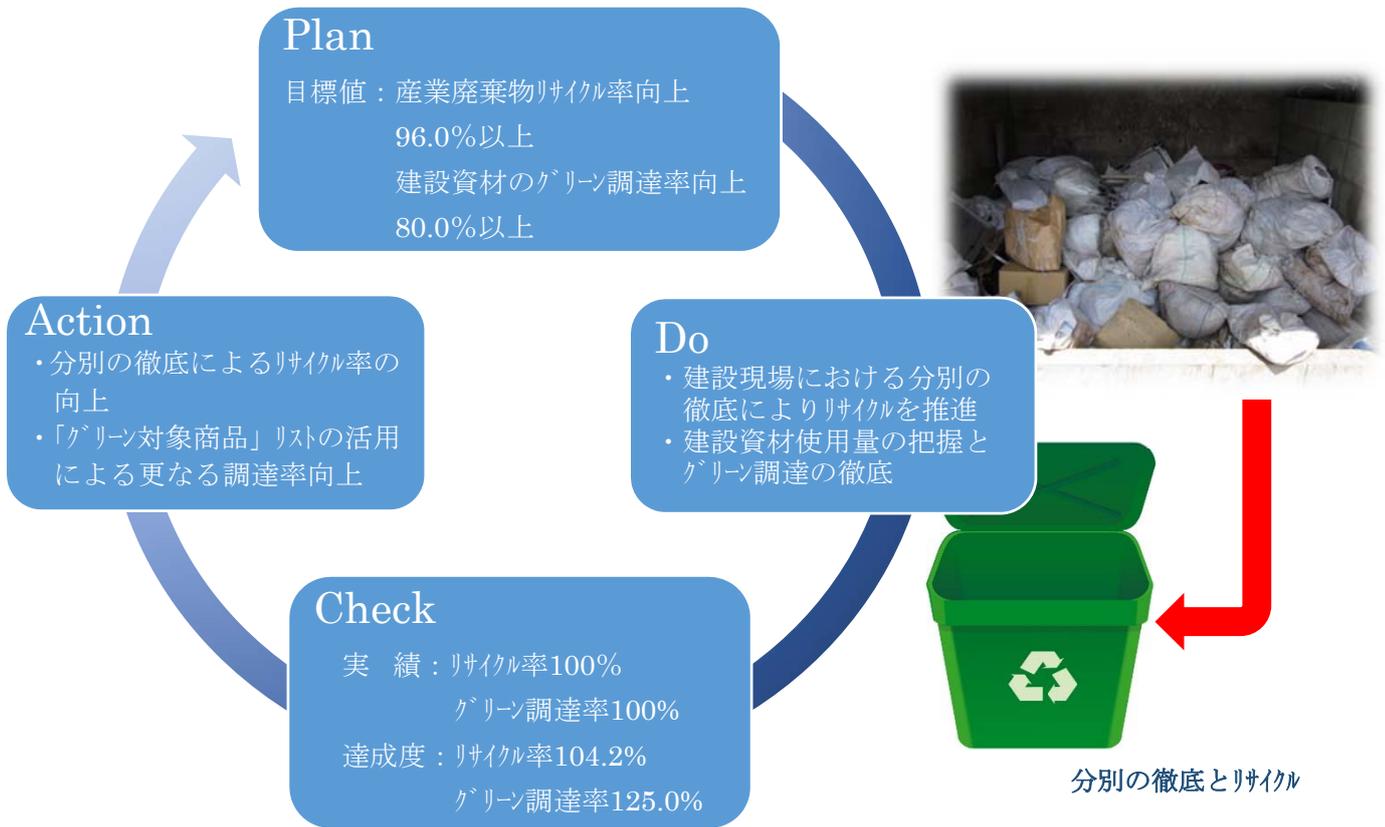
(%)  
99.0

着実に取組が定着し高水準を維持

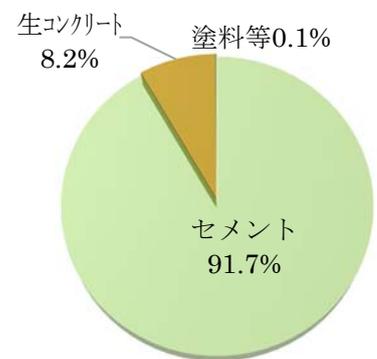
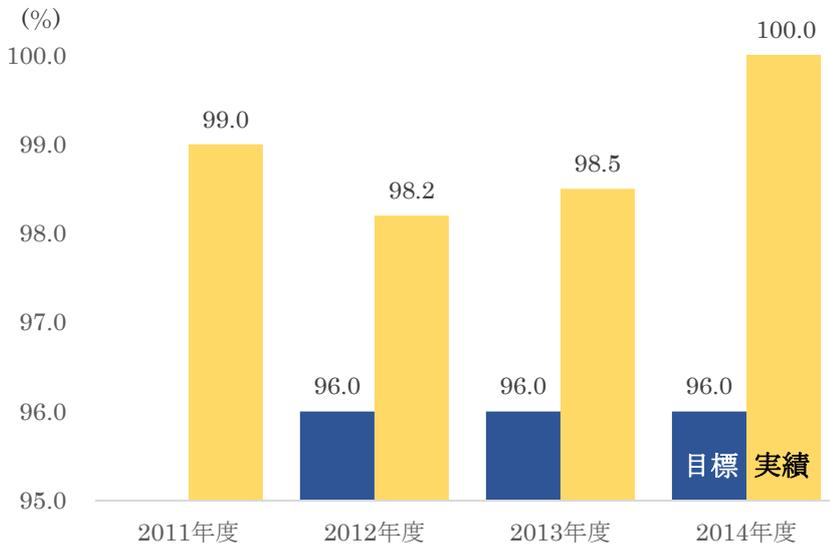


## ⑧建設業における産業廃棄物リサイクル率及びグリーン調達率向上の取組

2014年度の取組



### 2012年度より目標値を定めて取組み高水準を維持(リサイクル率)



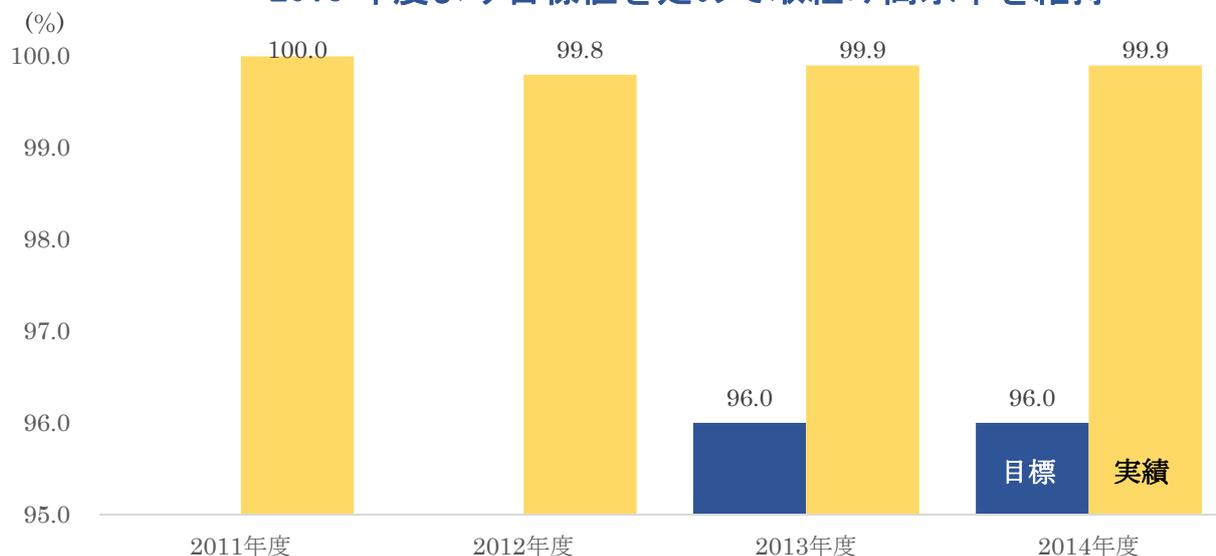
建設資材内訳

## ⑨産業廃棄物処理業におけるリサイクル率向上の取組

2014年度の取組



### 2013年度より目標値を定めて取組み高水準を維持



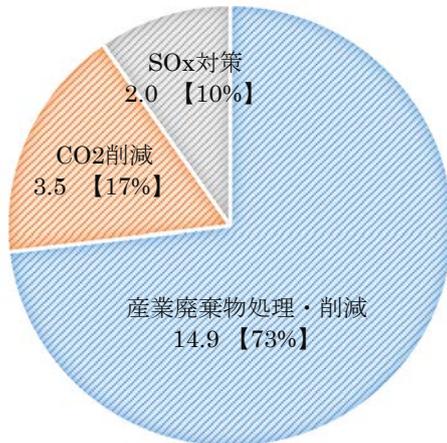
(4) 事業別環境負荷実績

[ ] 内は 2013 年度実績

	製造業			建設業			産業廃棄物処理業		
資源投入量	エネルギー使用量			エネルギー使用量			エネルギー使用量		
	電力	235 万 kWh	[254 万 kWh]	ガソリン	4 kl	[4 kl]	電力	12 万 kWh	[8 万 kWh]
	A重油	853 kl	[974 kl]	資材使用量			軽油	68 kl	[62 kl]
	軽油	18 kl	[23 kl]	セメント	2,809 トン	[2,691 トン]	水使用量	1.8 千m <sup>3</sup>	[1.5 千m <sup>3</sup> ]
	その他	5 kl	[10 kl]	生コンクリート	251 トン	[176 トン]			
	水使用量	50 千m <sup>3</sup>	[59 千m <sup>3</sup> ]	鋼材	6 トン	[3 トン]			
	コピー用紙使用量	120 万枚	[170 万枚]	防錆塗料	1 トン	[1 トン]			
	化学物質取扱量			その他	1 トン	[1 トン]			
	メチルナフタレン	10 トン	[13 トン]						
	キシレン	1 トン	[1 トン]						
事業活動	生産量			工事件数			収集した産業廃棄物の処理量		
	 コンクリートポール	72 千トン	[77 千トン]	 鉄塔基礎工事	906 件	[1,136 件]	受入量	16 千トン	[16 千トン]
	 コンクリートパイプ	0 千トン	[1 千トン]	電力管路工事	89 件	[125 件]	破砕量	16 千トン	[16 千トン]
	 地中電線管路材	4 千トン	[4 千トン]	建築・土木構造物 基礎工事	63 件	[65 件]	再資源化量		
	産業廃棄物リサイクル率	98%	[97%]	その他工事	189 件	[163 件]	路盤材、原材料	15 千トン	[14 千トン]
	古紙リサイクル率	100%	[100%]	産業廃棄物リサイクル率	99%	[99%]	リサイクル業者に再委託	1 千トン	[1 千トン]
							形鋼材	1 千トン	[1 千トン]
						産業廃棄物リサイクル率	100%	[100%]	
環境負荷量	二酸化炭素排出量	3,810 トン-CO <sub>2</sub>	[4,320 トン-CO <sub>2</sub> ]	二酸化炭素排出量	9 トン-CO <sub>2</sub>	[8 トン-CO <sub>2</sub> ]	二酸化炭素排出量	251 トン-CO <sub>2</sub>	[211 トン-CO <sub>2</sub> ]
	産業廃棄物処分量	19 トン	[170 トン]	産業廃棄物処分量	0 トン	[20 トン]	最終処分量(委託)	33 トン	[29 トン]
	化学物質排出量	1 トン	[1 トン]						

## (5) 環境活動コスト

設備投資[百万円]

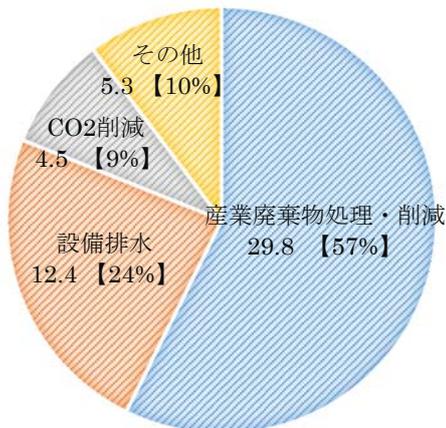


コスト合計 [20.4百万円]

### 【設備投資の主な内容】

- ・ 産業廃棄物処理・削減  
スラッジリサイクルに伴う設備設置など
- ・ CO2削減  
デマンド監視装置機器改善など
- ・ SO<sub>x</sub>対策  
蒸気漏れ抑制対策など

活動費用[百万円]



コスト合計 [52.0百万円]

### 【活動費用の主な内容】

- ・ 産業廃棄物処理・削減  
スラッジ処理委託費用など
- ・ 設備排水  
工業用水処理に伴う消耗品費用など
- ・ CO2削減  
空調設備の維持管理費用など

コスト削減効果

項目	前年度比	基準年度比
電力使用量	1.6 百万円	9.8 百万円
A 重油使用量	10.3 百万円	31.3 百万円
水使用量	2.8 百万円	11.0 百万円

省エネルギー活動の取組により、電力・A重油・水の使用量で前年度比 14.7 百万円のコスト削減を実施した。特に、ポール生産工場を集約し生産効率が向上した事により A 重油使用量が大幅に減少した。

基準年度比では、高効率照明器具への更新やコンプレッサーの改良、オートクレーブ稼働日数の調整等の取組により▲52.1 百万円と大幅なコスト削減効果が得られている。

## (6) 環境衛生資材『床カラット』

### スラッジリサイクル事業

これまで産業廃棄物として処分していたコンクリートスラッジ（コンクリート製品の製造工程で出るセメント汚泥）を、ボイラーの排気ガスで炭酸化処理することで調湿・除菌・脱臭効果が得られることに着目し、牛舎の敷床材に混ぜて使用する環境衛生資材『床カラット』を開発しました。なお、環境衛生資材『床カラット』は2014年10月から販売を開始しました。

製品開発に当たっては、(財)九州産業技術センターの産業技術支援として製品の評価を行い、販路開拓面での支援を受けています。

このスラッジリサイクル事業は、2014年に、環境・リサイクル関連分野における産業の振興や新規事業の創出を目的としたK-RIP（九州地域環境・リサイクル産業交流プラザ）プロジェクトに採択されたほか、同年7月には中小企業新事業活動促進法に基づき、国の『新連携支援事業』に認定されました。



**開発商品**

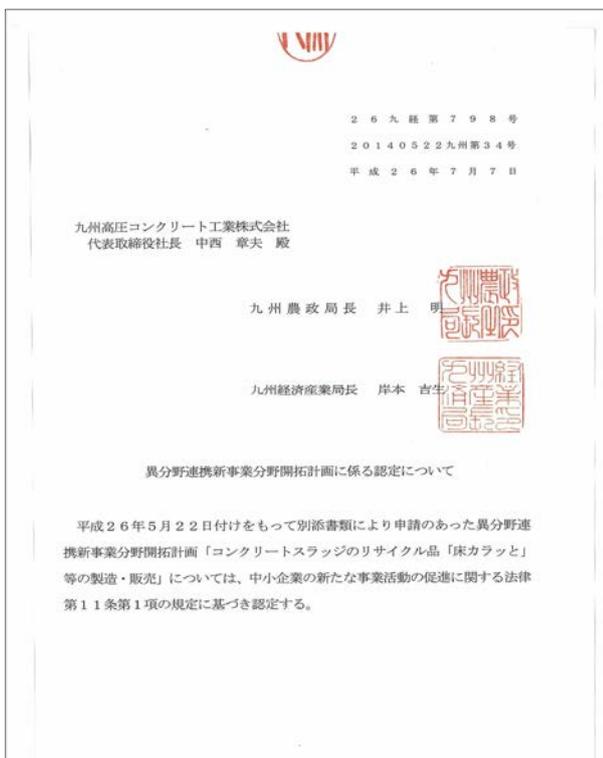
- **環境衛生資材（床カラット）**  
家畜の敷床材に混ぜて、  
消臭・殺菌・堆肥化促進副資材
- **油吸着材**  
漏油等の回収材、脱臭剤
- **調湿材**  
床下・壁材の調湿材料
- **吸水・保水材**  
乾燥剤や除湿剤用吸水材料  
・シリカゲルの代用品  
・取替え不要な除湿剤



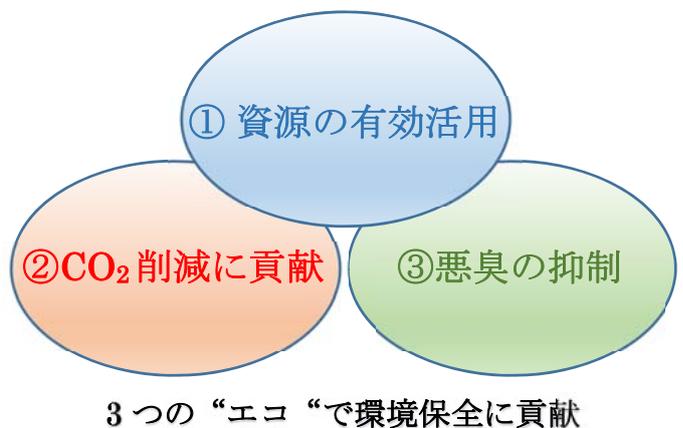
環境衛生資材（床カラット）



造粒したスラッジ  
油吸着材、調湿材、吸水・保水剤



### 新連携支援事業認定書



6. **環** 境関連法規制の遵守

【環境関連法規制】

環境一般		地球環境		廃棄物・リサイクル		大気・騒音・振動		水質・土壌		化学物質	
主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況	主な法規制	遵守状況
工場立地法	○	地球温暖化対策推進法	○	廃棄物処理法	○	大気汚染防止法	○	水質汚濁防止法	○	P R T R 法	○
公害防止組織法	○	省エネ法	○	P C B 特措法	○	騒音規制法	○	浄化槽法	○	毒物・劇薬取締法	○
		フロン回収破壊法	○	建設リサイクル法	○	振動規制法	○				
		オフロード法	○	自動車リサイクル法	○						
				家電リサイクル法	○						
				小型家電リサイクル法	○						

環境関連法規の遵守状況の確認及び評価の結果、当事業に適用される環境関連法規への違反はありません。また、関係機関からの指定、利害関係者からの訴訟もありませんでした。

【産業廃棄物処理業の情報公表項目】

(1) 産業廃棄物処理施設

項目	豊前工場	熊本工場
許可番号	第457号	第中-226号
許可年月日	2010年1月22日	2012年5月10日
設置場所	豊前工場敷地内	熊本工場敷地内
事業施設の種類の	がれき類の破碎施設	がれき類の破碎施設
処理能力	97.6ト/日(8時間)	160.0ト/日(8時間)
産業廃棄物の種類	がれき類	がれき類

※2001年度より埋立処分は未実施

(2) 広域認定証

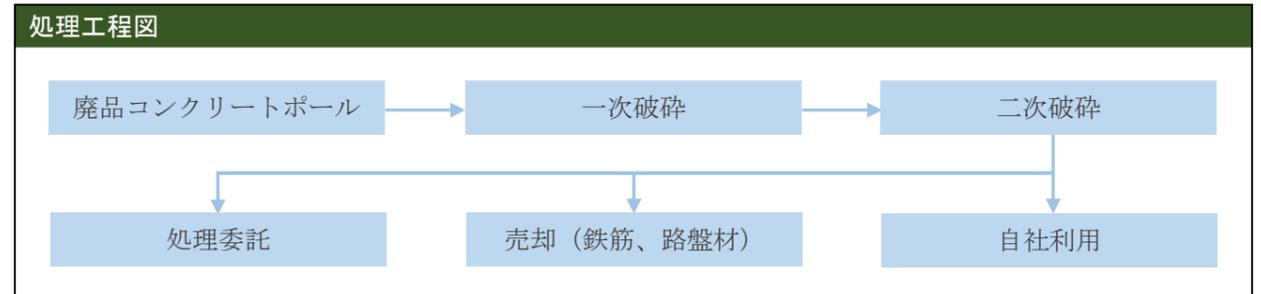
項目	内容
許可番号	第199号
許可年月日	2010年12月8日
産業廃棄物の種類	当社製造のコンクリートポールが産業廃棄物となったもの
処理区域	全国

(3) 産業廃棄物収集運搬業(自社運搬のみ)

項目	福岡県	大分県	熊本県	宮崎県	鹿児島県
許可番号	04000008997	04408008997	04305008997	04500008997	04603008997
許可年月日	2012年2月8日	2012年1月22日	2012年1月25日	2012年2月14日	2012年2月22日
有効年月日	2017年2月7日	2017年1月21日	2017年1月24日	2017年2月13日	2017年2月21日
産業廃棄物の種類	がれき類	がれき類	がれき類	がれき類	がれき類

(4) 産業廃棄物処分業

項目	豊前工場	熊本工場
許可番号	04020008997	04325008997
許可年月日	2012年2月21日	2013年9月26日
有効期限	2017年2月20日	2018年9月25日
事業の範囲	中間処理(破碎)	中間処理(破碎)
産業廃棄物の種類	ガラスくず、がれき類	ガラスくず、がれき類
処理方式	油圧スクリーンクラッシャー方式	ジョークラッシャー方式



## 7. エネ法実績

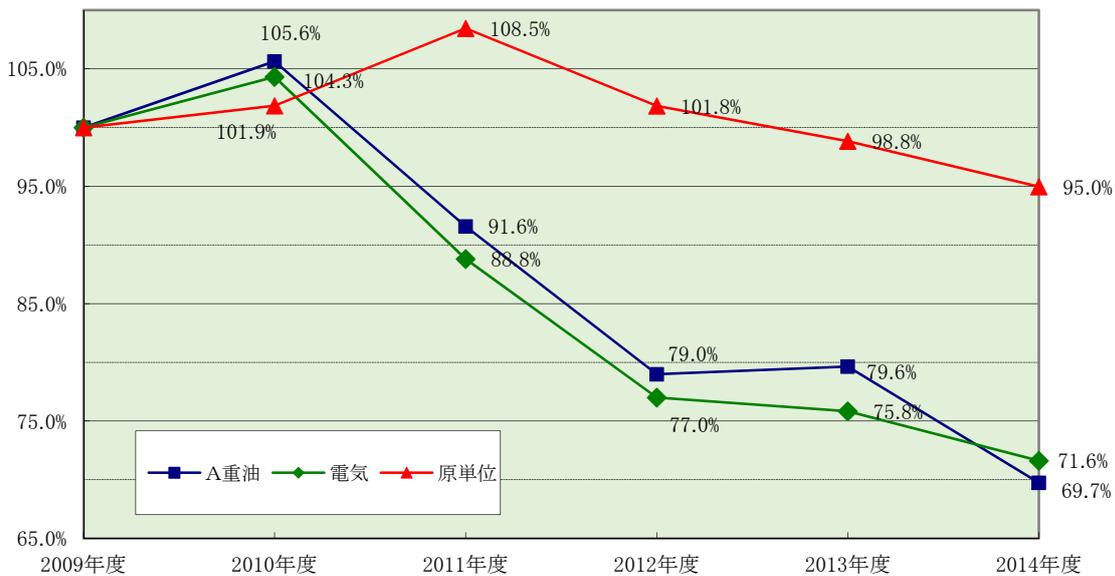
### (1) 実績の分析・評価

省エネ法の改正（2010年4月施行）に伴い、当社も特定事業者指定されたので、エネルギー管理体制を構築し、設備毎の使用実態把握およびエネルギー管理規程や合理化計画を策定し取組んできました。

この結果、エネルギー使用量は減少しましたが、電力の設備投資抑制の影響で生産量も減少し、数年間は原単位の減少に至りませんでした。

2014年度は基準年から5年目の節目となりますが、これまでの取組の積み重ねにより、目標であるエネルギー原単位5%削減を達成することが出来ました。

【2009年度を基準とした実績推移】



○ 2014年度のエネルギー原単位は、前年度比で96.1%、基準年度比で95.0%と減少し、毎年1%削減目標（5年間で基準年度比▲5%）を達成した。

- ・ A重油は前年度比87.6%、2009年度比69.7%
- ・ 電気は前年度比94.5%、2010年度比71.6%

### (2) 主な省エネに係る設備投資及びエネルギー削減量

- ・ 省エネ診断によるアドバイスを参考にして、設備の改修を計画的に実施

実施年度	概要	削減量 (年)	
		対象エネルギー	エネルギー削減量
2010年度	ボイラ給水用純水化装置の導入によるA重油の削減	A重油	130kℓ
2011年度	高効率照明器具への更新	電気	97千kWh
	コンプレッサーの改良	電気	179千kWh
2012年度	高効率変圧器への更新	電気	37千kWh
	高効率コンプレッサーへの更新	電気	28千kWh
2013年度	蒸気養生槽蒸気漏れ対策	A重油	23kℓ
	工場屋根へ断熱塗料を塗布	電気	35千kWh
2014年度	スパーサー養生槽蒸気漏れ対策	A重油	5kℓ

## 8. **次** 年度の環境目標

### (1) 2015 年度目標

項目	目標	目標設定の考え方
<b>【製造業】</b>		
オフィス電力使用量削減	7.92kWh/m <sup>2</sup> 以下	九電グループ目標で取組
工場等の電力使用量削減	30.6kWh/t 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
低公害車の導入	71.0%以上	目標据置きで取組
ガソリン消費率向上	13.5km/l以上	目標据置きで取組
A 重油使用量削減	11.7l/t 以下	省エネ法対応で前年目標▲1%
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組
古紙リサイクル率 100%	100.0%	目標据置きで取組
用紙使用量削減	975 枚/以下	目標据置きで取組
オフィス水使用量削減	0.54 m <sup>3</sup> /人以下	目標据置きで取組
工場等の水使用量削減	0.79 m <sup>3</sup> /t 以下	中長期目標に従い前年目標▲1%
事務用品のグリーン調達率向上	86.0%以上	九電グループ目標で取組
規制フロン回収率 100%	100.0%	目標据置きで取組
<b>【建設業】</b>		
産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組
建設資材のグリーン調達率向上	86.0%以上	九電グループ目標で取組
<b>【産業廃棄物処理業】</b>		
収集した産業廃棄物リサイクル率向上	96.0%以上	目標据置きで取組

※m<sup>2</sup>は床面積、t は生産重量、人は事務所人員数を示す

### (2) 2015 年度新規取組環境活動計画

環境活動の取組が定着し、各事業所で計画的かつ適切な取組が行われており、良好な活動結果となっていることから現行取組を継続する。更に循環型社会形成に寄与するため、以下の項目を新規に織り込む。

- 改正省エネ法への適切な対応
- フロン排出抑制法への適切な対応
- バッテリー再生による産業廃棄物の削減

## 9. 代表者による全体評価と見直し

### (1) 環境目標の達成状況

2014年度環境活動は、15項目中14項目で目標達成しました。電気使用量については目標未達となりましたが、これは、生産量の減少幅が電気使用量の減少幅を上回り、原単位が増加したことが要因であり、全社的には計画的かつ適切に取り組んでおり、概ね良好な活動結果となりました。

### (2) 環境活動計画の実施及び運用結果

当社は2010年省エネ法の特定事業者指定されたのを契機にエネルギー管理体制を構築し、きめ細かなエネルギー管理や環境負荷の低減に努めてきました。

また、EMSのレベルアップを図る為、翌年E A 2 1を導入し環境活動に取り組んできました。

この結果、省エネ法実績では、エネルギー使用量の原単位が2013年度に初めて基準年度を下回り、5年目の2014年度は、基準年度比▲5%を達成しました。

活動全体に目を向けると、情報公開や教育訓練、内部監査の実施など活動の定着化が図られています。また、環境活動レポートがエコアクション21レポート大賞九州の『九州地方環境事務所長特別賞』を受賞するなど活動内容の向上が伺えます。

### (3) 今後の取組

エコアクション21、九電グループ環境アクションプラン及び省エネ法への対応を考慮した上で、今後も環境方針やガイドラインに沿って環境活動を実施するとともに、地球環境に配慮した事業活動を通じ、環境負荷低減に努め地球環境に優しい企業を目指してまいります。





**Kyushu Kouatsu Concrete  
Industries Co., LTD.**

本レポートについてのご意見・お問い合わせ先

---

九州高圧コンクリート工業株式会社

環境管理責任者 取締役常務執行役員 企画部長 杉元 重晴

環境管理担当者 企画部経営管理グループ 中村 敏彰

TEL (092) 554-6653 FAX (092) 554-6702 <http://www.kyuatsu.co.jp/>